

庭訓往来

著者未詳で、南北朝時代から室町時代初期に成立し、明治初め頃まで約五世紀の間普及した往来物である。二十五通の漢文の手紙文例で構成され、内容は武家および上層庶民の社会生活を中心として、新年会、詩歌の会、地方大名の館造り、大名・高家の饗応などに及ぶ。

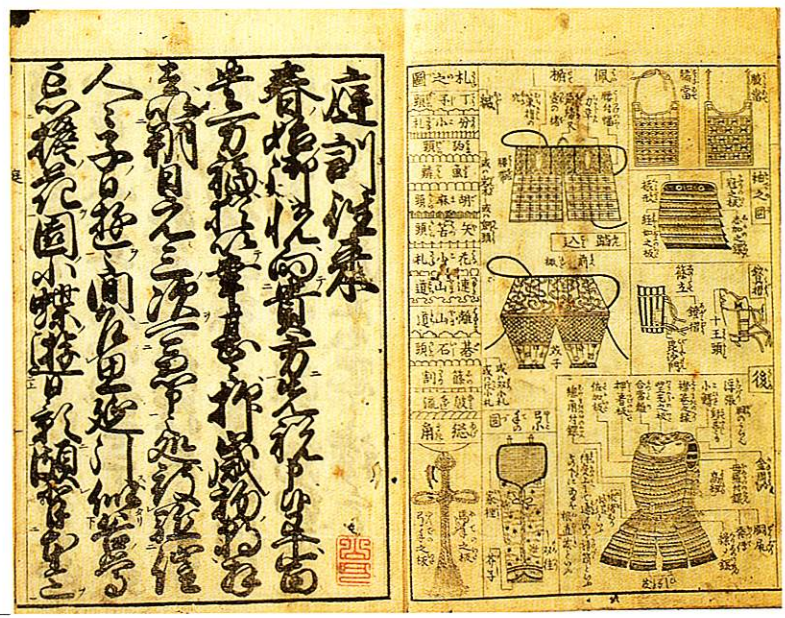
手紙文例中に多くの語彙を類別に列挙した単語集団をはさむという形式で、文例と単語の両方を一度に学習させる工夫がみられる。江戸時代になると、手本系・読本系・注本系・絵抄系とそれぞれの目的に合わせた板本が刊行された。



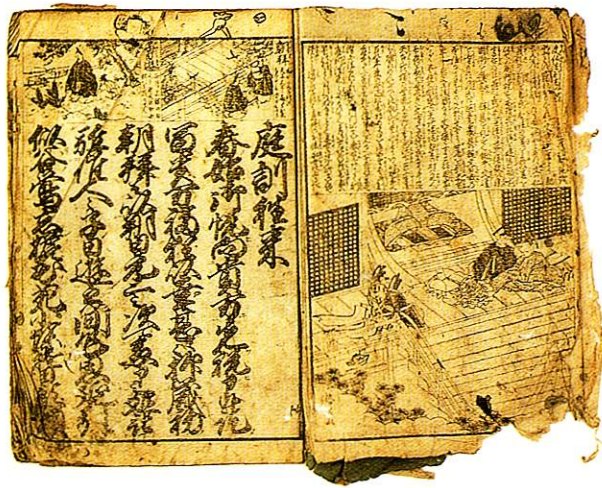
5  
庭訓往来  
ていきんおうらい  
一冊 大本  
寛文5 (1665) 本問屋開板



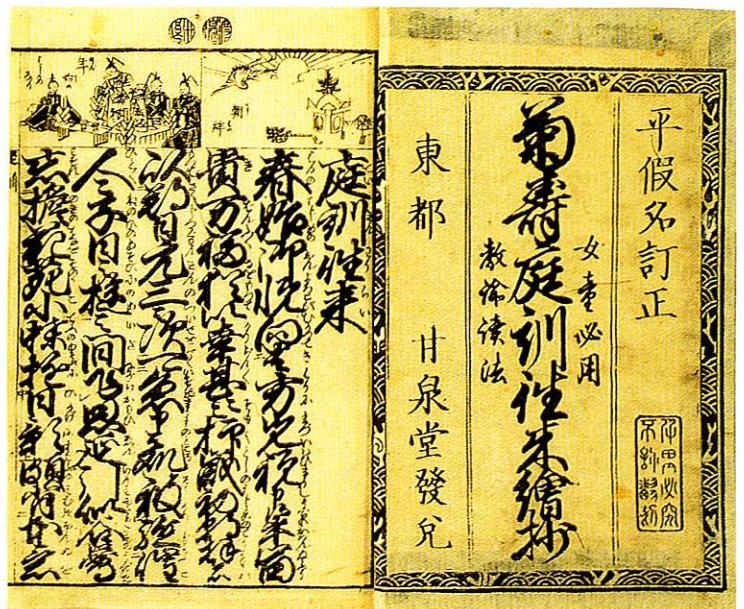
6-1  
庭訓往来  
ていきんおうらい  
一冊 大本  
文化6 (1809) 9月再刻 永寿堂梓  
西村屋伝兵衛旧板 西村屋与八再刊



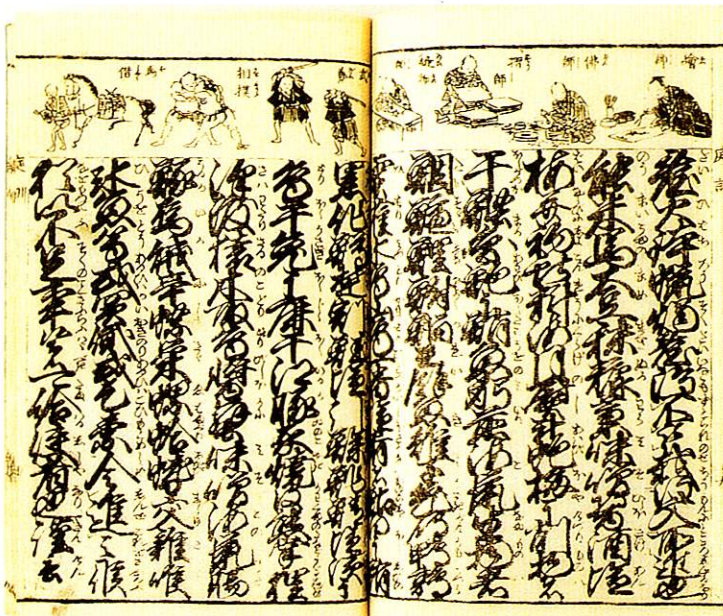
6-2



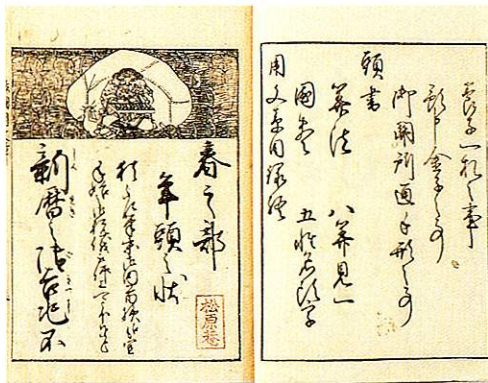
7  
庭訓往来  
ていきんおうらい  
一冊 大本  
安政2(1855)3月再刻  
須原屋茂兵衛 山城屋佐兵衛



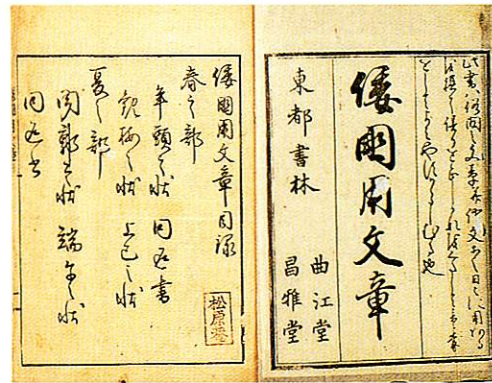
8-1  
菊寿庭訓往来絵抄  
きくじゅていきんおうらいえしょう  
一冊 中本  
江戸期 甘泉堂  
須原屋茂兵衛・須原屋伊八 他8肆



8-2



9-2

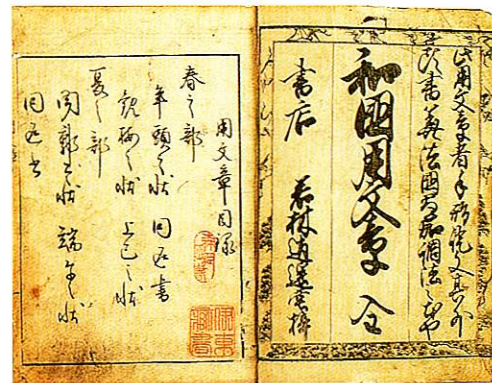


9-1

倭国用文章  
わこくようぶんしょう  
一冊 半紙本  
享和4 (1804)  
西村源六・多田屋利兵衛・中川新七・曲江堂・昌雅堂



10-2



10-1

和国用文章  
わこくようぶんしょう  
一冊 半紙本 江戸期  
若林清兵衛 (若林道通堂) 梓



12  
〈当時通用〉一筆啓上  
いっぴつけいじょう  
一冊 中本 江戸末期  
御家長善堂筆 東錦堂梓



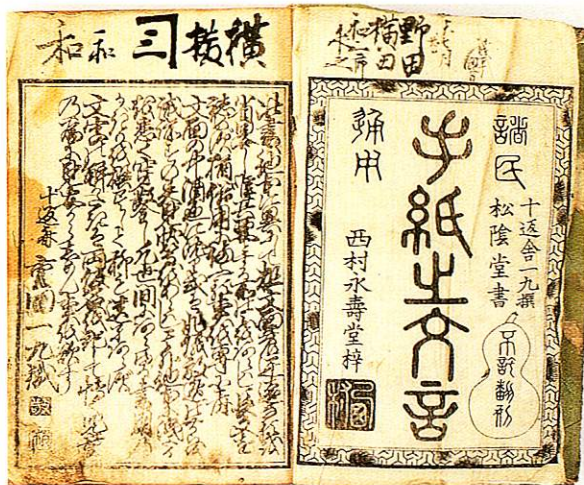
11  
〈世俗通用〉一筆啓上  
いっぴつけいじょう  
一冊 特小本  
万延元 (1860) か?  
御家梅泉堂筆 玉泉堂藏 布袋屋市兵衛



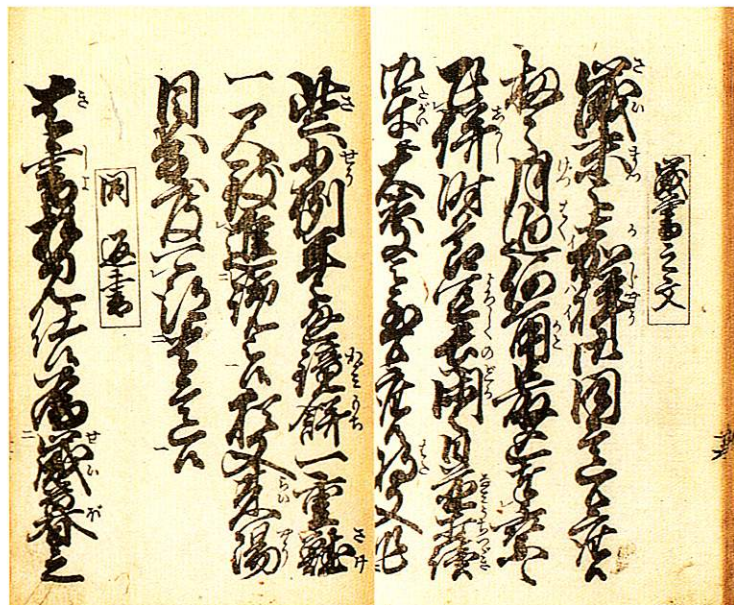
13-2



13-1  
 富士野往來  
 ふじのおうらい  
 一冊 大本  
 天明4 (1784) 3月  
 白馬山人筆 西村屋伝兵衛・西村屋与八・亀屋文蔵版



14-1  
 手紙之文言  
 てがみのもんごん  
 一冊 中本  
 天保3 (1832)  
 十返舎一九撰 松蔭堂主人 (内山松陰堂) 書 西村与八 (永寿堂) 板



14-2